www.vill.ohkura.yamagata.jp

おおくら

議会だより

古えのお雛様と雛御前

（白須賀　早坂恭一宅）

風水にふれる里
第127号
2021.春

もくじ

巻頭特集 …… 2〜3P
3月定例会 …… 4〜5P
一般質問 …… 6〜11P
委員会報告 …… 12P
報告 …… 13P
あれからどうなった？ …… 14P

発行／
〒996-0212 山形県最上郡大蔵村大字清水2528番地
大蔵村議会 0233-75-2111
編集／議会広報調査特別委員会　年4回発行
発行責任者／議長 鈴木君徳
印刷／共栄印刷株式会社

巻頭特集 中学生の提案を活かして

2015年に「愛郷心・キャリアの育成」を基に「美しい村プロジェクト」が始動。
この授業は、自分たちが住んでいる故郷の再発見と、もっと良くするにはどうしたらよいかを考える学習です。（昨年の11月30日の発表会に参加して）

食の学習

前身は20年ほど前、総合学習の授業で「将来の村づくり」を発表。

そばクッキーの「おおくら君」は17年程前に、「村には独自の土産が無い。雪だるまをモチーフにしたお菓子を作っては」と提案し、商工会の女性部有志が「ままちゃん工房」を立ち上げ、商品化しました。

おおくら君クッキー

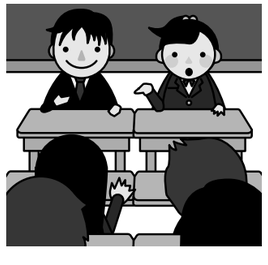
PR活動

その後2015年、村の観光パンフレットを作成し、2016年修学旅行先の西早稲田でPR活動、17年からは山形県のアンテナショップ前にて行ってきました。残念ながら昨年はコロナの影響で修学旅行も中止となりできませんでしたが、毎年恒例となっています。

パンフレット

発表会

初めは一年ごとの活動でしたが、年々レベルアップし、生徒たちが調査勉強したことを文化祭で発表しています。いつも会場は体育館ですが、昨年は教室で小人数の発表でした。



提案集　まとめ

これから

大人と違い柔軟な発想で、新しい視点で考えることはとても素晴らしい事です。**中学生だからと侮る事なかれ。**

今、村が直面している課題を、しっかりと私たち大人も考えて行かなければと痛感しています。
昨年の発表課題を改めて取り上げ、議会も一緒に考えて行きたいと思っています。

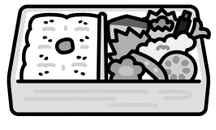
【昨年発表された中学生の提案】

美しい村プロジェクト2020

全校共通テーマ

『持続可能な村づくりを考える』

～30年後も「美しい村」であるために～

	食	PR	未来村	産業おこし
ゴール	棚田サミットで提供するお弁当を提案する。	村民にも観光客にもさらに大蔵村のことを知ってもらいもっと多くの人に訪れてもらうためのPR提案する。	今住んでいる人が住みやすくなる＆新しい人が住みたくなる方法を提案する。	村の発展につながる新たな産業を提案する。
授業内容	□大蔵村、最上の特産品を使ったおかず □弁当箱、包装紙等のパッケージ □村をPRするお品書き 	□パンフレット □PR活動・曲 	□大蔵村の杉を使った商品開発 □お年寄りになっても自分で歩行、食事ができる体づくり □写真映えするスポットのフォトブック □大蔵村をよりよくする方策 	□ホンモロコの養殖 □養蜂 □移動販売

3月定例会

令和3年度当初予算

総額52億5400万円で新年度スタート!!

一般会計 38億5000万円　特別会計 14億400万円

3月定例会が2日から5日にかけて開催され、新年度予算案に令和2年度補正予算等を加えた32議案を審議可決。先立って行われた一般質問では5人が村当局の考えをただし、高齢者対策等に活発な議論が交わされた。

専決処分

- **国民健康保険条例の一部改正**（コロナウイルス感染症傷病手当金の期限延長）
- **令和2年度一般会計・水道・下水道予算**（主に除雪費の追加）

条例の改正

- **障害のある人もない人も共に生きるまちづくり条例**（障害を理由とする差別の解消の推進に関するもの）
- **特別職の旅費、費用弁償等に関する条例の一部改正**（消防団員の出動旅費を支給するため）
- **介護保険条例の一部を改正する条例制定**（介護保険料の改正）
- **指定居宅介護・指定介護予防支援等一部改正4件**（国の介護関係法案の改正によるもの）
- **大蔵村消防団条例の一部改正**（消防団員の定数の見直し）
- **沼の台・肘折に係る総合計画の策定**（公共施設整備に対する財政の特別措置を受けるため）
- **肘折いでゆ館・カルデラ館の指定管理者の指定**（肘折温泉郷振興株式会社に決定）
- **湯ノ台スキー場の指定管理者の指定**（肘折スキークラブに決定）

人事案件

- **教育委員会委員の任命に同意**
  ★須藤　薫氏（平林）新任
- **教育長の任命に同意**
  ★有馬　眞裕氏（清水）再任

令和2年度補正予算

- **一般会計他6特別会計**（主に事業の清算によるもの）

令和3年度予算

- **令和3年度一般会計他7会計**（予算特別委員会で審議を行い、全会一致で可決成立）

請願

安心・安全・ゆきとどいた教育実現につながる30人学級の実現に関する請願。（少人数学級をすすめる県民の会）継続審査

臨時議会

- R2・12・25
  村特定環境保全公共下水道肘折下水処理場の災害復旧業務に関する協定の締結
- R3・1・20
  一般会計補正予算（豪雪に伴う除雪補助金増額等）

予算審査特別委員会

一般会計

歳入

問 地方交付税が増額されているが、交付見込みはあるのか?

答 国の財政計画の中で、前年比の伸び5．1％の予定であり、それに準じた。

問 村営バスの使用料700万円は運賃だけなのか。また、何人の利用を想定した額なのか。

答 運賃のみの額である。コロナ禍収束を期待して例年並みに28000人を想定している。

問 固定資産税の減額の要因は?

答 コロナ禍の影響で、軽減申請等が多くなったため。

問 土木費国庫補助金が3685万円の減額となっているが。

答 実績に合わせて交付されるため。

歳出

問 若者定着奨学金返還支援金出捐金とは。

答 卒業して県内に定住する人の奨学金返還の一部を県と村で支援する事業。

問 要援護者巡回事業を受けている人の感想や声を村として聞いているのか?

答 意向調査を行っている。

問 地域おこし協力隊の募集は現在どのように行っているのか?

答 現在、ホームページでのみの募集となっている。

問 高齢者の運転免許証の自主返納の人数は?

答 今年度は12名である。

問 湯ノ台スキー場の駐車場除雪委託料が、管理をする指定管理者委託料とは別だが別に委託する必要があるのか。

答 これまでも駐車場の除雪は、別途建設業者に委託をしている。

問 生産物直売所を解体した跡地はどの様に利用するのか?

答 当面駐車場としてのみ利用を考えている。

問 小型除雪機械購入費補助金とは。

答 公共使用を目的とした補助で、機械購入に50万円を限度とし、令和2年に初めて1台を補助。

問 村道「合海・大坪線」完成年度と総事業費は。

答 令和5年度の完成予定。総事業費は約6億円。

問 「ほたる火コンサート」の今年の開催は?

答 開催予定で予算計上したが、棚田サミットとの関連をみて検討。

特別会計

国民健康保険

問 令和3年度は、国民健康保険税予算が減額、要因は?

答 被保険者の減が主な要因。ただ、長期入院、重症患者が増えれば納付金は今後増える。

簡易水道事業

問 下水道使用料が令和2年度に比べ約2000万円減っている原因は?

答 人口減少に伴っての減。

介護保険

問 介護保険の施設介護サービス給付費が令和2年度予算に比べ約3000万円減っているが原因は?

答 利用者の見込みにもよるが、介護予防に力を入れたことも要因。

ここが知りたい

村政を問う

一般質問
3月
定例議会

写真は、防災無線
拡張機能の模擬体験

一般質問とは？

村政全般に対して議員が質問し、意見を述べ村政をただしていくもので、大蔵村では１議員の持ち時間が45分です。

5議員が一般質問

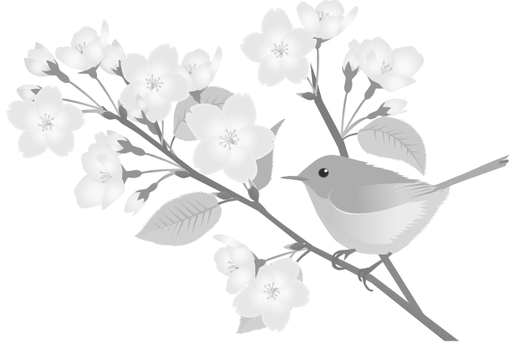
7P　佐藤　勝 議員
○民間企業が高齢者に注目

8P　佐藤　雅之 議員
○豪雪対策除排雪補助金の一層の拡充を
○基金等を活用して国保税の引き下げをはかれ

9P　矢口　智 議員
○空き家（空き地）対策
○地区代表の役割

10P　長南　正一 議員
○交通安全推進協議会の機能強化について

11P　早坂　民奈 議員
○誰もが住み良い村になるために



佐藤　勝　議員

民間企業が高齢者に注目

村長　福祉の向上を目指し各種施策を構築

葬儀代の保証、住んだままの住宅の売買、高齢でも入れる保険、栄養剤や健康食品、また、スマホ等、高齢者を標的にした商法が目立つ。この原資となるのが年金であり、会社の生き残りをかけた必死な経営方針である。このことを踏まえて、比較対象にはならないが、行政の立場から実情に合った施策を検討し実行しなければいけない。高齢者支援は恒例的なものではなく、立場や現状をきめ細かく把握し支援や保護に全力を尽くすべきである。時が経てば解決する問題ではない。３点について質問する。

問1　調査データには現れないが、トイレや食事の支援や片付け、回覧や訪問者への対応、施設への入所条件等の問題。また、ある程度に限定した「集合住宅」の建設は考えていないということだったが現在はどうか。

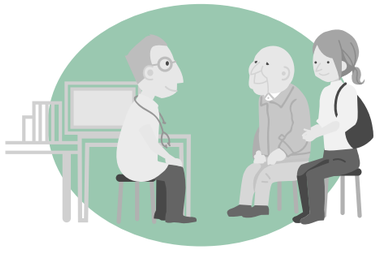
答1　高齢者への福祉や介護の意向調査の結果、出来れば地域に住みたいという意見が多い。データに現れないのは調査項目に該当しないためである。集合住宅は調査の結果を踏まえ、慎重に検討する。

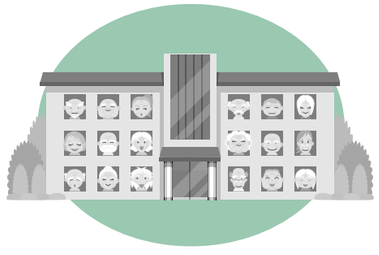
問2　屋根の雪や軒下、玄関の除雪はほとんど高齢者の仕事になっている。雪止めを設置しても、多量に積もった雪を片付けるのは誰か。業者委託もあるが順番が来ない。結局は高齢者の仕事になる。危険防止は訴えているが空しく聞こえる。この現状をどう捉えているか。

答2　全ての事を村でやるのは困難である。出来れば家族でやって欲しいが、困難な場合は、自助・共助・公助の観点から、地域での組織作りやボランティア活動も必要である。

問3　高齢者にとって欠かせないのが診療と投薬である。受診しないと薬は貰えないことになっているが、診療所や病院に行くのが大変。特に冬期間や農繁期には付き添いの家族に大変な気を遣っている。有給休暇を使える人はよいが、全てそのような環境ではない。他の患者の迷惑になると言えばそれまでだが、集団的な診療や出向く診療は出来ないか。

答3　一人暮らしや老々介護、除雪・医療などの課題は多い。家族や地域での相互扶助の支援と個々の問題を相談できる体制を整え、安心・安全と福祉向上を目指し、支援体制を構築する。訪問診療は医科・歯科共に行っている。





佐藤　雅之 議員

豪雪対策除排雪補助金の一層の拡充を

村長　公費ありきではなく、積雪や降雪量を考慮しその都度検討

問1　今年度は、新型ウイルスの猛威、夏の水害に加えて豪雪となり、村民の疲労と経済的負担は増している。豪雪対策除排雪補助金の対象を事業者などにも拡充し、機械だけでなく人力による除排雪も対象としたことは村民の願いに沿うもので歓迎する。この制度を一層拡充して①積雪状況に応じて補助率や額の増額、②除雪機械燃料代への補助、③豪雪対策の窓口となる「地区」や「自主防災組織」への支援補助金を創設する、の3点について考えを伺う。

答　今回除排雪経費の軽減のために適用範囲を大きく変更し、村民視点に立った活用しやすい画期的制度とした。同時に「補助ありき、公費ありき」となってはならない。質問について①補助率などは積雪や降雪量を考慮してその都度対応する。②燃料代補助は、それなりに収入や除雪機械を維持できる環境が整っている世帯なので燃料代補助は考えていない。③地区や自主防災組織が住民の除雪相談を行うというのは大変意義深い。経費補助については共助の観点からそれぞれのケースを考慮して検討する。

問2　除雪機械を持っている世帯は収入があるから燃料代補助をしないというのは違うのではないか。自助で、自前で除雪をする人ほど、資金繰りなどで苦慮している。豪雪地帯である大蔵村では除排雪は、高齢者などへの福祉施策という位置づけに留まらず、「なりわい」を守るものとして位置づけるべきではないか。

基金等を活用して国保税の引き下げをはかれ

村長　住民負担の軽減につながる方向で検討

問　平成30年度に国民健康保険の保険者（主催者）が山形県に一本化された。保険給付は、県から全て交付され、後から村が県に納付金を納めることとなった。年度末で一億三百万円。ただ、本村は小規模なため、重症患者などが出た場合の対応、団塊の世代が後期高齢者に成りつつあり、支援分担金の増額も考えられる。適正税率の設定と事業運営に努める。住民所得が判明する4月下旬に国民健康保険運営協議会に税率案を示す。今のところ、住民負担の軽減につながる方向で検討している。

答　村の国保基金は令和元年度末で一億三百万円。ただ、本村は小規模なため、重症患者などが出た場合の対応、団塊の世代が後期高齢者に成りつつあり、支援分担金の増額も考えられる。適正税率の設定と事業運営に努める。住民所得が判明する4月下旬に国民健康保険運営協議会に税率案を示す。今のところ、住民負担の軽減につながる方向で検討している。

夜の肘折

矢口　智 議員

空き家（空き地）対策

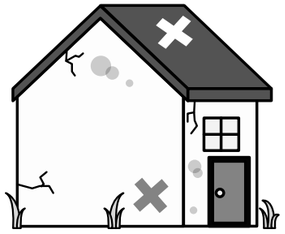
村長　公費投入は考えていない

問　平成24年にこの問題について質問・提案をしている。

　その時の答弁では「公費を投入する考えは無い。あくまでも個人の責任で」との考え。近年、県内でも撤去に関して公費投入する自治体が出てきている。また、その当時「空き家バンクの活用、ボランティアでの取り壊し」との考えも示されたが、その後の進展はどうか。村内で深刻な問題となっている空き家対策について見解を聞きたい。

答　村単独経費を使った補助は、空き家を放置したまま転出する方が増加し、村の財政負担が際限なく増加することが避けられないことが予想されるため考えていない。県内で公費投入の事例はあるが、撤去後の空き地利用計画が明確であり所有権も明らかであるなど、ただやみくもに実施されている訳ではない。

　空き家バンクは平成23年度に制度を立ち上げ、令和2年に一件申し込みがあったものの、残念ながら買い手が決まっていない。空き家バンクに対する村民の注目度が低いと感じている。また、過去に3件のボランティアでの取り壊し事例があるが、莫大な取り壊し費用負担に加え、解体し撤去するには基本的に所有者の同意が大前提であり、それらの確認が大きなハードルになっている。



地区代表の役割

村長　課題や問題点を十分に検討

問　3年前「地区運営の要」として、地区代表を中心とする運営体制の見直しについて質問したが、「地区代表者連絡協議会等で意見の集約を」との答弁で、地区代表者会に丸投げのまま何ら改善の考えを示す気配がない。

　最近、県内で地区代表者等の役割を見直し新たに条例化を進めた自治体が出てきている。地区運営において最も重要と考える地区代表の役割を改める動きがあったことに驚きを感じている。

　村政運営について最も重要と考える地区運営に対する考えを聞きたい。

答　地方公務員法及び地方自治法が令和元年に改正され、非常勤特別職の厳格化が行われた際、地区代表の位置づけについて検討したが、国からの指導により特別職とするには適当でないということから近隣の市町村と足並みを合わせ、現在に至っている。

　なお、地区の運営が村政運営においてもっとも重要と考えており、具体的な課題や問題点を示していただければ十分に検討したい。

交通安全推進協議会の機能強化について

村長 村にとって最も大切な達成と痛感した

長南 正一 議員

問1 大蔵村では、令和2年11月27日に交通死亡事故ゼロ7000日を達成しました。車社会の中、大記録であり村民の大きな誇りとして、村内外に発信できる記録であり、これも、ひとえに交通安全協会・母の会・防犯協会・子供見守り隊・かもしかクラブ等多くの方々の協力により偉業が達成できた。

今後も、記録の延長を掲げ、令和3年度中の交通死亡事故ゼロ20年の達成に向け、交通安全標識の設置・議会での交通安全服の着用・村民から安全標語の募集・のぼり旗の作成等を推進し安全意識の高揚を図り、推進協議会傘下の全組織を挙げた強力な運動の展開を望む。

答1 交通死亡事故ゼロ記録を伸ばす事は、村民の安心・安全に繋がり、日数や年数を定めず無期限の目標を掲げ、協議会の機能充実と併せ、村を挙げて交通安全に誠心誠意尽力する。

交通安全標語の募集に関しては是非実行したいと考えており、のぼり旗の制作については、語呂の内容と、必要性と安全性を事業主体である交通安全協会と協議し、前向きに実施する。

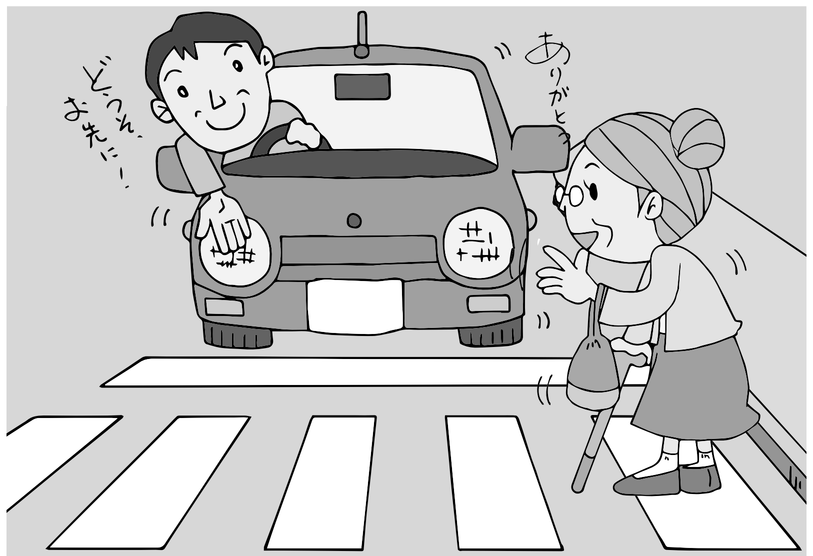
議場における交通安全服の着用は、議会が主催し開催すると考え、更なる交通安全の推進のために議会に彩りを添える様、心から期待する。

また、交通死亡事故ゼロ7000日を達成したことは、村民が平穏に無事に暮らすことが村にとって最も大切であると痛感し、今後村として誠心誠意取り組んで行く。

問2 全国的に高齢者のドライバー、歩行者共に事故が多発している。

交通安全ゆとり号の受講による適性診断を受け、交通事故の撲滅を図る事が大事であり、推進協議会の活動として取り組むべきである。

答2 実行する方向で検討する。



誰もが住み良い村になるために

村長 地域で高齢者を見守る共助の環境づくりを支援

早坂 民奈 議員

問1 今年の豪雪は大変だったが、特に高齢者の方はどのように過ごしたのだろうか。杖を片手に除雪をしている姿も見受けられ、胸を締め付けられる思いだ。

高齢者の一人暮らしや、高齢者世帯に対し、村が多くの支援を行っているのは知っているが、住み慣れた地域にいつまでも住み続けたくとも、雪問題は大きい。高齢者用住宅を望む声も多く聞かれる。そこで高齢者住宅の必要性はあると以前答弁していたが、建設予定はあるのか。また、代案はあるか伺いたい。

答1 高齢者住宅の建設を否定はしていない。担当課内で設置に向けた検討をし、また、民間事業者を交えた事業スキームも検討している。冬期間だけ過ごせる住宅や、施設の充実を望む声もある。安心して生活できる場として生活支援ハウス「みどり」の拡張充実を図ることが第一と考える。高齢者施策は他町村と比べ見劣りしない。今後も、地域で高齢者を見守る共助の環境づくりを支援していく。

問2 高齢者は冬期間安心して暮らせれば、いつまでも住み続けることが出来る。住宅建設には、高額な金額と時間がかかる。そこで自立できる高齢者を対象に旅館を利用する、いわゆる長期の湯治を提案する。旅館は閑散期に収入を得、利用者は雪の心配もなく安心して過ごせ、村は住宅の建設が不要になり、一石三鳥ではないか。また、低額で利用できるよう補助できないか。

答2 補助ありきでは税収入も減っており、個人ではなく旅館の支援を検討していく。また、空き家をリフォームしシェアハウスのような冬期間利用も考えている。村に頼るのではなく、議員自ら具現化するようにお願いしたい。

問3 肘折は湯治を売りにしており、すぐにでも実行できる下地がある。自立している方々は自炊し、食事を3食提供しなくとも良く、旅館側も掃除食事の手間がかからなければ、料金も安く抑えることが出来、話し相手もいる。高齢者が安心して住み続け、観光業も含め、肘折の活性化になるのであれば、積極的に具現化できるように活動していく。

肘折旅館 自炊場

委員会報告

産業建設常任委員会

2月2日、議員全員で冬期間の村内道路状況調査を実施いたしました。（本年度は豪雪となり対策本部を設置）

調査当日は降雪の中で、村内を隈なく巡回してきましたが、地域それぞれ降雪量や積雪量の違いこそあれ、生活に直結する道路であり、住民の生活から分離することの出来ない冬の厳しさを、改めて痛感したところです。

国県道はもとより幹線的村道については除雪が行き届き、通勤通学や日常生活に支障をきたすような、危険箇所は見受けられませんでした。小規模な表層雪崩や車両に接触の恐れのあるブッシュについては、すでに通行上危険と判断される箇所など、雪庇除去や適宜その対応がなされていました。

冬期間の除雪計画は、村道管理延長139．2㎞のうち除雪車両の能力や道路事情を考慮し、約60．6㎞を除雪計画路線として、除雪機械16台をもって冬期交通の確保に努めているわけですが、大蔵村は全国的にも名だたる豪雪地です。行政と除雪に携わる業者等関係者の努力により、地域住民安心と安全が確保されていることに感謝し、本年も安堵したところです。

雪崩防止柵（豊牧地区）

総務文教常任委員会

今年度はコロナ禍で外部研修が行えず、本委員会において以下の件について協議しました。

●除排雪補助率の検討

今冬期は異常と言える豪雪に至り、村全体に除排雪の支援が実施され多くの村民が恩恵を受けています。しかし、個人の財産にも大小の差があり除排雪費用も格差が発生します。

さらなる支援として、費用の段階的補助率設定検討を要します。

●発達障がい者（児）の研修

発達障がい者（児）の理解を深めるための研修の実施を検討。

●避難所設営と避難行動要支援者計画策定

昨年7月豪雨による災害時の避難所開設において、種々の課題が確認された。

これらを調査し、今後の避難所設営のマニュアルに編入するべく内容を検討。

さらに「大蔵村地域防災計画」の他に、高齢者・障害者等の避難支援を目的とした「避難行動要支援者支援計画」の早期策定を進める。

鈴木君徳 議長
全国町村議会議長会特別表彰を受賞

鈴木議長は山形県町村議会議長会の副会長を務めており、その功績が評価され受賞しました。
本議会議員一同、誇りにおもいます。

この度、二月の定期総会の席上において、全国町村議長会特別表彰並びに山形県町村議会議長会表彰を頂くことができ、大変嬉しく思っています。村民の皆様、議員の皆様の御支援、御協力の賜物と感謝申し上げます。

今後も大蔵村の良さを県内外に発信すると共に、他県、他市町村の良さも取り入れながら議員活動に努めていきたいと思っています。

今後共、御支援、御協力を宜しくお願い申し上げます。

鈴木 君徳

町村議会パネルディスカッション
～女性議員と次世代目線から地方議会を考える～

令和3年3月24日　山形国際交流プラザにて町村議会パネルディスカッションを開催し、パネラーとして早坂民奈議員が発表する予定でしたが、**コロナ感染者増のため、急遽中止**となりました。しかし、ディスカッションの内容は、今後の議員なり手不足について参考になる事案なので、紹介します。

テーマ

人口減少・少子高齢化の急激な進展、行政改革による議員定数の大幅な減少等により、議員活動が増大し、家庭生活等に支障をきたす状況が見られるようになった。また、町村議員の報酬は議員活動と家庭生活の両立には程遠い。他の様々な要因が重なり、議員のなり手、特に女性・若者の立候補者率が低い。そこで、「今何が不足しているのか」「何が必要か」を女性・若者の意見を聴く。

1. **議会・議員の環境整備について**
2. **議会の情報発信は伝わっているのか、または他にどのような情報発信が有効か**
3. **女性や若者が立候補しやすい選挙とは、また立候補にあたってのポイントは**
4. **議会が主催する住民との交流・協働の場（会合）等の必要性と実践**
5. **町づくり（地域）の課題等の調査・研究（社会科学習・課外授業等）や住民自治・議会の役割等を授業に取り入れていく事の必要性と実践**
6. **地方議会のデジタル化への変革**

以上の内容でしたが、今まさに当議会が直面している課題です。今回は中止となりましたが、是非次回開催し、意見を聴きたいと願っています。（早坂民奈 議員）

あれから、どうなった？ 検証・提言

No.7

毎年の様に村を襲う水害、一般質問などを通じて防災対策が問われました。内水などの対策として、最上広域市町村圏事務組合から、排水ポンプ車が村内に配備されたり、浸水等の予想や避難所を示した、ハザートマップも全戸配布されています。今後、最上川中流域の氾濫等に備え、国や地方公共団体が、どのような対策を行っていくのでしょうか。

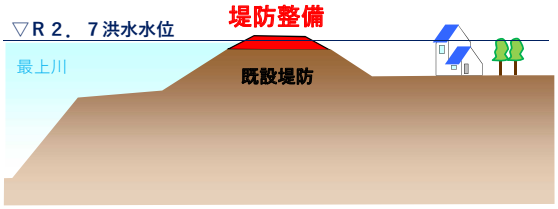
今回は、河川対策を見ていきます。

氾濫を防ぎ、減らすための対策として、国、県、市町村で構成する「最上川流域治水協議会」が令和2年9月15日に発足しました。

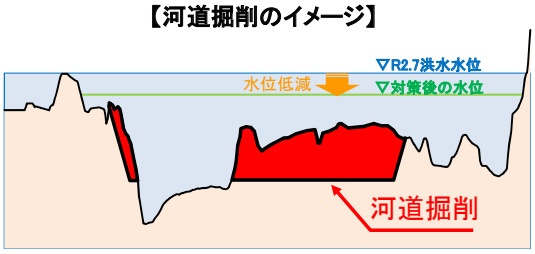
浸水被害のあった白須賀地区の対策は、堤防整備と河道掘削があげられています。現在は「暫定堤防」で、本格的な堤防に比べて低くなっています。一刻も早い嵩上げが求められます。併せて、中洲があったり、土砂堆積物が溜まったりしていることから、河川の水位を下げる為の「河道掘削」も有効な手段とされています。

ただ、堤防の嵩上げは、最上川中流域全体のバランスを考慮した整備が求められ、河道掘削も含め、最上川流域事業全体の事業期間は令和11年度までと長期に及ぶ計画となっています。毎年の様に起こる水害に対して、堤防などのハード面の対策を急ぐことと合わせて、自主防災組織の機能強化や日頃の避難訓練など、ソフト面での対応も求めていきます。

【堤防整備(白須賀地区)のイメージ】



【河道掘削のイメージ】



イメージ図の出展:国土交通省東北整備局山形河川国道事務所HP「最上川中流・上流治水対策プロジェクト」より抜粋し編集

後書き

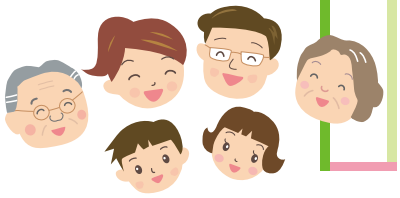
先日Ｙｏｕｔｕｂｅ番組を見て、思わず笑い泣きしてしまった。

「黙食」、「マスク」、「ソーシャルディスタンス」が叫ばれている中で「なんと不謹慎な」という声が聞こえてきそうだが。モノクロで言葉も使わないサイレント映画の名前は、「モダン・タイムス」。ヒトラーを皮肉った「独裁者」の監督でもある、喜劇王チャーリーチャップリンの名作である。工場労働者として機械に使われる男の悲劇が見ている側からするといかにも滑稽で笑えるのだ。

笑っている場合ではない時だからこそ人々は笑いに飢えている。どこかで、思い切り笑える場所が必要だと誰もが感じているはず。チャップリンも悲劇の中にあり、笑いと希望を世界に届けた偉人だった。

ある研究では、笑いには、免疫力を上げる機能があるという。ワクチンへの期待も高まる中で、笑いの可能性もこの時代に改めて信じてみたい。

ただし、Ｙｏｕｔｕｂｅ漬けのステイホームは、改めるべきだが。（佐藤雅之）



議会広報調査特別委員会

委員長　早坂民奈
副委員長　佐藤雅之
委員　矢口智
委員　斉藤光雄